

1. 単元名 暮らしをささえる まちではたらく人びと (3) ー農家で作られるものー

2. 単元の目標

- ・地域の生産の仕事は、土地条件を生かしたり、生産を高めるための工夫を行ったりしながら行われていることや、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを捉えることができるようにする。
(知識・技能)
- ・いちごづくりの工程に着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することができるようにする。
(思考・判断・表現)
- ・いちごづくりの工夫について主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしたりすることができるようにする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「農家で作られるもの (いちご)」を教材として取り上げる。福岡のあまおういちごは、いちごの生産量として全国で2位の実績をもっていることや、子どもにとって身近な食べ物であることから、子どもが意欲をもって学習に取り組める教材と言える。そして本教材は、ビニルハウスの中のいちごづくりの工程や、いちごが消費者の手に届くまでの流れをもとに、生産に携わる人々の工夫を捉えることができる教材である。また、その生産に携わる人々の工夫は消費者の願いと密接に関わっていることを捉える上からも価値のある教材と言える。本教材で捉える生産者と消費者の関係は、4年生での人々の健康や生活環境を支える事業についての学習へと発展する。さらに、後に子どもたちがエネルギー問題について学習する際、1つの社会的事象として再び取り上げることのできる教材である。

また、教材としていちごを取り上げることで、いちごの旬の時期を捉えたり、いちごづくりにおける農家の人々の苦労を捉えたりすることができる。このことは、自らの判断で食品を選んだり、食品を大切にしたりする等、食育の観点からも意義のある教材と言える。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、これまでに、自分たちの市の位置や、市の様子を大まかに捉えたり、土地の特徴による土地利用のされ方の違いを説明したりすることができるようになってきている。そこで、福岡市元岡ではいちごづくりが盛んであることを知り、関心の高まっているこの期に本単元を取り上げる。そして、いちご農家の人々の工夫を人々の生活と関連付けて捉え、生産の仕事に関心を向けることができるようにする。このことは、社会的事象に疑問を持ち、問題解決へ向かう子どもを育てる上からも意義深い。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、農家の人々の工夫が消費者の願いと一致していることを捉えることができるようにする。まず、単元の導入段階では、地図帳や給食の献立表をもとに、福岡市で作られている作物を調べ、学習の見通しをもつことができるようにする。次に、展開段階では、元岡ではいちごをおいしく作るためにどのような工夫をしているのか調べ、農家の人々の工夫や生産に携わっている人々の工夫を捉えることができるようにする。そして、なぜ農家の人たちはいちごづくりでさまざまな工夫をしているのか話し合う活動を通して、いちごづくりの工夫は消費者の願いとつながっていることを捉え、学びを深めることができるようにする。最後に、わたしたちは、今後どのように農作物と関わっていくとよいか話し合う活動を通して、学習を自分の

生活に置き換えながら広げることができるようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・私たちの身の回りには様々な食材があり、それによって様々な献立を楽しむことができること。

相互性・・・生産者と消費者は密接な関係にあり、この関係が維持されることで生産者も消費者も豊かになること。

連携性・・・食料生産は、生産者だけが努力するのではなく、私たちが地球全体のことを考えて努力することが大切であること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

いちごづくりの工夫について生産者と消費者の視点について考える。

長期的思考力

これから農作物とどのように関わっていくことが大切か考える。

コミュニケーションを行う力

これからの食料生産や、自分たちの食生活や消費行動について、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

・本学習で変容を促すESDの資質・能力

世代内の公正

生産者も消費者も豊かになるような食料生産を追求することが大切である。

自然環境や生態系保全を重視する

豊かな自然環境があることで豊かな農業生産ができる。

幸福感を大切にす

物が、いつでも、どんな種類も、あり余るほど手に入ることが「本当の豊かさ」ではない。

・達成が期待されるSDGs

2 持続可能な農業の促進

1 1 持続可能なまちづくりの促進

1 2 持続可能な生産・消費形態の確保

1 5 陸域生態系の保護

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①福岡市元岡でのいちごづくりは、土地条件を生かしたり、生産を高めるための工夫を行ったりしながら行われていることを捉えている。	①いちごづくりの工程に着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考えている。	①いちごづくりの工夫について主体的に学習の問題を解決しようとしている。
②生産の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを捉えている。	②元岡でいちごをおいしく作ることができるわけを、いちごづくりの工夫とその工夫の理由を合わせて表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

5. 単元の指導計画（全8時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1. 地図帳や給食の献立表をもとに、福岡市で作られている作物を調べ、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡市では様々な農作物が栽培されているね。 産地を意識したことがなかった。今度買い物するとき見えてみようかな。 福岡のいちごはおいしくて有名だと聞いたことがある。おいしいいちごはどうやって作られるのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市で作られているあまおういちごへの興味・関心を高めさせるために、「あまおう」は、「あかい・まるい・おおきい・うまい」の頭文字から名づけられたことや、「あまおう」は福岡の特産品であり、生産量が全国で2番目に多いことを提示する。 	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>元岡ではいちごをおいしくつくるためにどのようなくふうをしているのだろう。</p>			
2	<p>2. いちごの農事暦から疑問や予想を出し合い、学習計画を立てる活動を通して、いちごづくりの工程を捉え、調べる意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗を冷やすのはなぜだろう。 なぜ10月にミツバチを入れるのだろう。 外ではなくビニルハウスで育てるのはなぜだろう。 <p>3. ビニルハウスの中の工夫を調べ、農家の人々の工夫を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビニルハウスでいちごを育てることで、収穫できる期間が5か月も伸びている。 ボイラーで暖かい空気を出して、いちごに霜がついて痛むことを防いでいる。 天井に電灯をつけることで、明るい時間を長くし、いちごの成長を早めている。 <p>4. 働く人の工夫を調べ、農家の人々の工夫を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗を冷やすことで、いちごの成長がずれ、長い間収穫できるようにしている。 ミツバチを入れることで、花粉がつき、形の良いいちごができるようにしている。 花を摘むことを手作業ですること、大きいいちごに育てるようにすると同時に、いちごの様子を観察している。 <p>5. 私たちにいちごが届くまでの工程を調</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立てやすくするために、子どもから出た疑問や予想を「ビニルハウスの中の工夫」「働く人の工夫」等、視点ごとに分類しながら板書する。 ビニルハウスにおける農家の人々の工夫を捉えやすくするために、資料に写真を載せて提示する。 長い間、収穫するための仕組みを捉えやすくするために、仕組みを図でまとめた資料を提示する。 いちごを新鮮なまま届けるための工夫を 	<p>ウ① (主体的)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>イ①</p>

	<p>べ、生産に携わる人々の様子を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮なうちに運ぶために、高速道路が使われている。 ・収穫してから運ばれるまで、冷蔵庫で冷やされており、運ぶ時も冷蔵庫付きのトラックで冷やされている。 ・集荷場から青果市場まで 40 分で運ばれている。 	<p>時間に着目して捉えさせるために、資料内の工程ごとに日付と時間を載せて提示する。</p>	<p>(思判表)</p>
<p>なぜ農家の人たちはいちごづくりでさまざまな工夫をしているのだろうか。</p>			
	<p>6. いちごづくりにおける農家の人々の工夫がなぜ行われているのか話し合い、いちごづくりの工夫は消費者の願いとつながっていることを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮なうちに運ばれるのは、私たちが新鮮なものを食べたいと願うからだね。 ・手作業でいちごを観察しているのは、私たちが安心していちごを食べることができるようにするためだね。 ・長い間収穫できるようにするのは、私たちがいちごを食べたいときに食べられるようにするためだね。 <p>7. 元岡でいちごをおいしくつくることができるわけをまとめる活動を通して、学習したことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちご農家の人々は、消費者の願いに応えながらこんなにもたくさんの工夫をしていたんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の人々の工夫を消費者の願いと結び付けて考えることができるようにするために、工夫と願いを矢印でつなげながらまとめるよう指示する。 ・学習が一目見て振り返ることができるようにするために、いちごづくりの工夫をウェビングマップでまとめるよう指示する。 	<p>ア② (知・技) イ① (思判表)</p> <p>イ② (思判表)</p>
<p>3</p>	<p>8. 私たちはこれからどのように農作物と関わっていくと良いか考え、話し合う活動を通して、学習を自分生活に置き換える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの子どもが学習を広げることができるようにするために、振り返りを小グループで共有した後、全体交流を行う。 	<p>ウ② (主体的)</p>
<p>わたしたちは、今後どのように農作物と関わっていくとよいだろう？</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物は自然があって生産できるから、まずは自然を大切にしたい。 ・農作物の背景には生産者の苦労があるからなるべく残さず食べるようにしていきたい。 ・今後はいちご以外の作物の作られ方も調べてみたい。 		